

IV 下部構造編

質問回答 No.	質問	回答	備考
No. IV-13-1	<p>○支持層</p> <p>R7 道路橋示方書・同解説IV編 13.3.3 (3) 解説に「深度の浅い完新世の地層は一般に支持層とはなりえない」とあるが、完新世の地層でも調査により十分な強度及び剛性を有していることが確認できた場合、支持層とすることは可能か。</p>	<p>支持層は、橋脚基礎部及び橋台基礎部を支持するために十分な強度及び剛性を有している必要があります。深度の浅い完新世の地層は、支持層として十分な強度及び剛性を有していないものが多いこと、圧密沈下や橋に影響を与える液状化が生じるものが多いことから、IV編 13.3.3 (3)解説に「一般に支持層とはなりえない」と記載されていますが、調査により十分な強度及び剛性を有していることが確認でき、IV編 13.3.3 の規定を満足する場合は完新世の地層を支持層とすることを否定するものではありません。</p>	<p>R7 道示IV p. 284 13. 3. 3 (R8. 6. 2 公表)</p>
No. IV-14-1	<p>○直接基礎を支持する粘性土地盤が完全に飽和している場合の支持力の評価</p> <p>14.4.1 (2) 5) iii)の解説において、直接基礎を支持する粘性土地盤が完全に飽和していない場合の考え方は示されているが、完全に飽和している場合については、地盤の種類の違いを考慮する係数をどのように考慮すればよいか。</p>	<p>飽和粘性土を支持層とする基礎の地盤の支持力は、直接基礎、ケーソン基礎の違いによらず、土質の特性に応じて適切に評価する必要があります。直接基礎であっても粘性土地盤が完全な飽和状態にある場合は $\zeta_c=0.55$ を考慮することが適切と考えられます。飽和状態にある粘性土地盤の支持力の評価については IV 編 2 章 2.4.3 解説④地盤定数の特性値の設定に、また、直接基礎の地盤支持力の評価と同様の評価方法を用いるケーソン基礎の地盤支持力の算定については IV 編 16.4.1 に解説があり、直接基礎からの荷重を受ける粘性土地盤が完全な飽和状態にある場合の評価にもこれらを適用することが適切と考えられます。</p>	<p>R7 道示IV p. 332 14. 4. 1 (R8. 6. 2 公表)</p>